番号	３	木起し地蔵		
所在地		佐賀市本庄町鹿子		
災害別		天保年間（１８３０年頃）　暴風		
目的別		伝　承	建立年	不　明
特記事項				

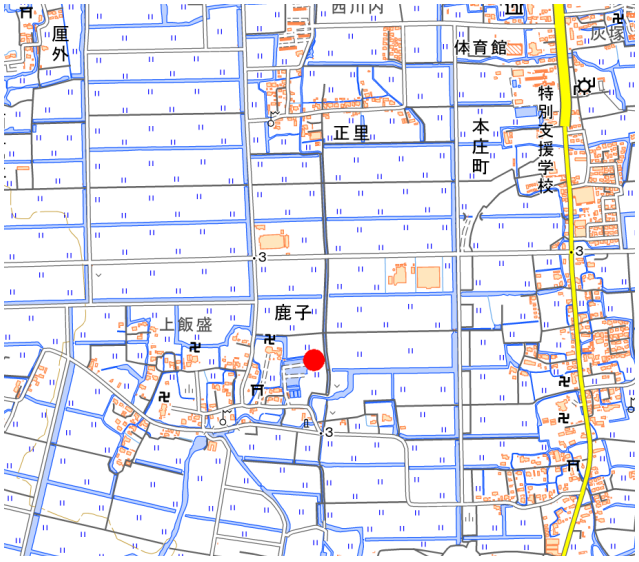
地蔵様が大風で倒れた大木を起こして元に戻したという伝承は高木瀬の「木起地蔵」にもあるが、佐賀市本庄町鹿子の「木起し地蔵」にも伝わっている。

ただしこちらは、高木瀬の木起地蔵に伝わる子年の大風（文政１１年　１８２８）の後になる天保年間の大風とされている。

「天保年間（１８３０年頃）大暴風で倒れた大楠が、正里から飯盛へ通る唯一の里道をふさいで村人が困っていますと、一夜のうちに起こしてくれたお地蔵さんをお礼に今も祭っています。」（説明板より）

「木起し地蔵の物語　上飯盛の常照院の東に正里から中野實翁生誕地へ通ずる道路寄りに、大きな楠が空をついている。その根元に「木起し地蔵さん」が小屋に鎮座されている。この物語は天保年間（１８３０～１８４３）頃のある日のこと、恐ろしく強い台風が吹いて、地蔵さんの傍らの大楠が、東の道路に倒れそうで、南は有明海の海岸で、北は本庄村正里へ通じる重要道路で上飯盛住民一同集まり、長老を中心に話し合

ったが、あまりに楠が大きすぎて、処置に困って、夜を迎え住民は寝入ってしまった。　ところがその夜、夜どおし「ヨイサー、ヨイサー」と東の方向より掛声が聞こえ、朝を迎えた。住民は集まって、「昨夜の掛声はナンジャッタローカ」と話しながら東を見ると、アーラ不思議　ヤー、あの大きな楠が立派にたち上り、空をついていた。住民は、チョコンと坐した根元の地蔵さんを見て、これはこの地蔵さんが一晩中かかって起こしてくれたと感謝して、本堂を作り「木起し地蔵さん」と言って今日まで祭り続けてきている。」(出典:「本庄の歴史」S62,10,1　本庄公民館発行　P68 より)



国土地理院電子国土 Web